

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		水源地域等保安林整備		路河川名等	—						
事業毎の通番		5	市町村名	小谷村	箇所名(ふりがな)	深原(ふかばら)					
事業概要	事業目的	平成25年台風18号の直後の調査により濁沢、追分沢、白井沢の既設谷止工基礎部等の洗掘、また平成26年の融雪後の施設点検において葛蒲平の土留工の老朽化破壊が確認された。倒壊等が発生すると下流へ大量の土砂が流出し、JR大系線等の保全対象が被災する危険性が高いため、対策を実施し安全を確保する。									
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1地域防災力の向上		事業実施の根拠法令等	森林法						
	関連する事業、計画等										
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家67戸(李平・阿原集落)、JR大系線400m、林道深原線600m、村道4000m、耕地9ha、上水道・防火・農業用水180									
	着手年度	平成27年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)					
	完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	12.62	国庫	205,000	其他	184,500	一般財源	20,500	
	全体事業内容(主な工種)	谷止工5個、谷止工改修4個、山腹工0.4ha(土留工7個ほか)、森林整備9.0ha			410,000	205,000	184,500	20,500			
	年度事業内容(主な工種)				0	0	0	0	0	0	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	李平・阿原集落、JR大系線、村道、林道深原線の保全(土砂流出の抑制・防止含む)								
		間接的効果(定量的・定性的)	李平・阿原・深原集落から国道第148号方面への通行確保(迂回路なし)、JR大系線の運行確保								
評価の視点	必要性	○人家戸数:	67戸(李平・阿原集落)	○公共施設数:	JR大系線、村道複数路線	○災害時要援護者関連施設の有無:	なし	○保安林・林業用施設:	保安林あり(59%)、林道深原線	評価	A
	重要性	○過去の災害履歴:	平成25・26年災により深原線埋没	○交通遮断による地域経済への影響:	JR大系線(平成11年災により運休)	○地域防災計画上の位置付け:	警戒区域として位置付けあり			評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C):	12.62	○事業期間:	平成27~31年度	○工法等の比較検討:	嵩上・新設の比較検討等	○流域の総合調整:	なし(治山事業のみ)	評価	B
	緊急性	○流域の地形、地質:	凝灰岩、頁岩、蛇紋岩、安山岩	○平均渓床勾配(平均山腹勾配):	溪流10°以上、山腹30°以上	○下流の堰堤等の整備状況:	満砂した谷止工等多数、一部破損あり	○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域:	山地災害危険地区Aランク3、Cランク1、警戒区域2	評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:	小谷村に周知済	○地域の取り組み:	地元自治会等の要望活動あり	○地域の合意形成:	事業目的については合意形成が図られている	○住民との協働:	山地防災ヘルパーによる施設点検の実施	評価	B
	部意見	既存施設の老朽化が著しく、放置すれば豪雨等により下方保全対象へ大きな被害をもたらす恐れがあるため、対策を行う必要がある。	行政改革課意見	保全対象に人家、JR大系線、上水道等があることから、重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	評価結果	○	総合評価	A			

事業概要説明図表

位置図・平面図

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	計画区域内は、昭和35年から治山施設を設置していたが、平成25年台風18号の直後の調査により濁沢、追分沢、白井沢の既設谷止工基礎部の洗掘等が確認され、平成26年融雪後の施設点検において葛蒲平の土留工の老朽化破壊が確認された。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	濁沢については継続して、他箇所は平成26年に小谷村経由で地元から要望あり。
③事業説明等の経緯	平成26年9月1日に小谷村へ公共治山事業計画を立てる旨の通知を行った。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	濁沢における現地発生石材の利用及び各施工現場における濁水対策に配慮する。
⑥地域活性化への影響と配慮	JR大系線の運休を防止して地域の足を確保すると共に、農業用水を保全し農業生産活動の維持継続を図る。
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 51' 23" 東経:E 137° 55' 07"